

無防備な春のニホンイシガメ

小賀野大一

290-0151 千葉県市原市瀬又962-40 千葉県野生生物研究会

Locomotion habits of the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*, found in spring.

By Daiichi Ogano

Chiba Prefectural Wildlife Research Society, 962-40, Semata, Ichihara, Chiba 290-0151, Japan.

寒い冬が終わり、ニホンイシガメ(以下イシガメ)の活動が始まる3月~4月にかけては、複数の個体が水辺近くの陸地で日光浴をしている場面に出会うことがある。この時期のイシガメは人が近づいてもほとんど動かないため、素手で次々と拾いながら捕獲することができる。このようなイシガメの無防備とも思えるような習性は個体群調査を行なう研究者にとっては大変有り難いものといえる。一方で、天敵となったアライグマにとっては陸地で容易に発見でき、捕獲できるイシガメは、コストのかからない餌資源となってしまう。陸地を頻繁に利用するイシガメは、出会った敵に対し甲羅に首や四肢を納めて難を避けるという手段が最大の防御方法であった。しかし、手先の器用なアライグマという外来種には通用せず裏目に出てしまったようだ。このことが、比較的陸地の利用が少ないミシシッピアカミミガメなど他の淡水カメ類よりイシガメへの捕食被害が大きい要因の1つであると考えている(小賀野他, 2015)。また、アライグマと同様にペット業者による乱獲も容易にできる時期であるため、監視のためのパトロールを強化し、危険を回避することが重要といえる。

本報告では、2016年4月16日と4月23日の両日に千葉県北部の里山に残るイシガメの生息地で個体群調査を実施した際に、捕獲の様子を記録したのでその一部を紹介する。図1は4月16日に水田脇の陸地にいた昨年生まれの幼体で、背甲長38.3mm、体重9.6gの個体であった。図2は4月23日に水田から数メートル離れた日当たり良好な斜面で捕獲した推定年齢5歳の雌で、背甲長95.4mm、体重127gの個体であった。この2日間の調査で捕獲したイシガメは42個体で、その内の約半数に当たる22個体が紹介したような石ころを拾うようにして捕獲した個体であった。

イシガメの生息地は全国的に減少の一途を辿ってきている。そのため、今回紹介したような捕獲方法ができる地域も次々に無くなっていった。今後は、僅かに残った生息地の保全や絶滅した個体群の復元を目指して努力を続けていくことが、イシガメの生息地を奪ってきた私たち人間の責務といえるだろう。

引用文献

小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫. 2015. 房総半島の溜池に生息するニホンイシガメの危機的状況. 爬虫両棲類学会報 2015(1):1-8.

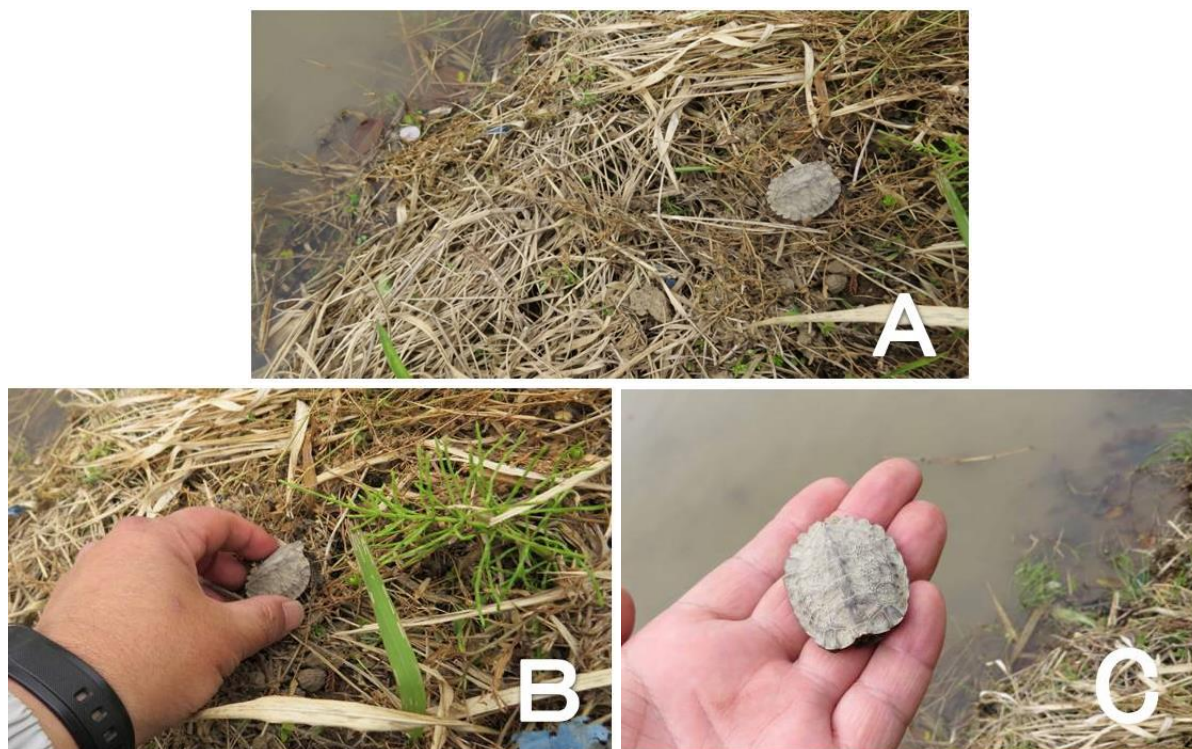


図1. 昨年生まれのニホンイシガメ幼体 2016年4月16日撮影

- A: 水田脇の陸地にいた幼体
- B: 容易に素手で捕獲される幼体
- C: 捕獲された昨年生まれの幼体

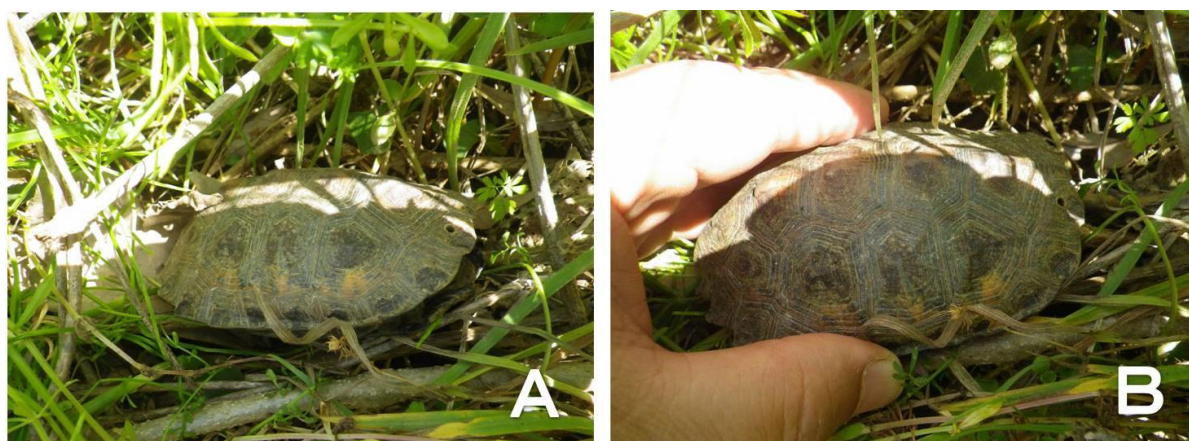


図2. 雌のニホンイシガメ 2016年4月23日撮影

- A: 水田から数m離れた日当たり良好な斜面にいた雌
- B: 容易に素手で捕獲される雌